

第2回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年7月8日(木) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 各審議会委員(欠席者 大橋委員、河島委員、南委員、山田委員)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長 岸 博一

企画財政課総括主幹 川口 哲治

企画財政課主幹 松田 秀治

企画財政課主任 中村 仁志

[審議事項関係課]

健康福祉課長 松田 孝司

総合窓口課長 毛利 浩

健康福祉課総括主幹 若狭 義高

健康福祉課係長 吉田 浩一

地域包括支援センター係長 山本 外志恵

総合窓口課係長 北 雅晴

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

(略)

3. 第1回会議録の確認について

4. 会議傍聴者について

5. 追加資料について

6. 審議事項

(1) 「子育て」について

健康福祉課長より説明の後、審議

【アドバイザー】

・合計特殊出生率が、以前県より高かったのに、近年下回った理由をどのように考えているか。

【健康福祉課長】

・原因の分析まで至っていない。結婚適齢期の女性の減少や未婚率の上昇により婚姻数や合計特殊出生率が減少し、出生数も減少するというサイクルを断ち切るため、いい方向への施策が必要だと考えている。

・民間の調査によると、羽咋市の働く女性の比率は全国の中でも数十番目かのかなり高い数字だった。そうしたことも要因の一つではないかと考えている。

【アドバイザー】

・全国的な傾向として、地域経済が雇用結びついていて、雇用状況が厳しいため若い人が結婚しづらい状況にある。安定した仕事につくよう若い人への支援が必要ではないか。

・待機児童が多いといった都会の状況と羽咋市は異なっている。逆に施設が余ったりしている。飯田市では、先輩のお母さん方が若い母親の相談に乗ったりするたまり場事業を廃校になった幼稚園などを有効利用している。高齢者向けのサービスもしたりして、いろんな世代との交流をしている。統合してしまうと遠くになってしまうが、近くにある施設などを活用していくというのも今後大事ではないか。

【委員】

・こすもす保育園の園長を務めている。保護者のニーズに応えていくことが大事だと考えている。県内でも羽咋市は高いレベルだと思っている。年中無休で保育を実施しており、延長保育も行っている。働いている母親も多いため、朝早かったり、夜遅かったりする状況に合わせてサービスを行っていて、昔と比べ児童が滞在する時間も長くなっている。保護者のいろんなニーズを捉えて計画を練ることが大事だと思う。

【委員】

・企業の立場からすると、昔と比べ女性の勤務形態が変わってきている。平日の昼間がメインだったのが、女性の雇用機会均等ということもあり、最近は土

日、夜間を含め変則的になってきている。女性の活力を生かすためにも、休日、延長保育などの子育て支援はありがたいし、今後もその方向で行ってほしい。

【委員】

- ・子どもの出生率が低下しているのは残念。アドバイザーから話があったが、雇用とか連鎖していると思う。企業誘致などの雇用の活性化など、安心して生活できるような保障が少ないまちではないかと思っている。
- ・課長の説明にあったように羽咋市の子育てサービスは手厚いものだと思う。
- ・新聞の出生欄を見ていると、中能登町より羽咋市の方が少ないように思う。中能登町では、子供が産まれると高額のお祝い金が出るという。そうしたのも一つの歯止めになるのではないか。
- ・何が有効かと言えばすぐにわからないが総合的に連鎖していると思うので、総合的に考える必要があるのではないか。

【委員】

- ・羽咋市の子育てサービスは手厚いと思うが、その前の段階として、出会いの場を設けるなどの事業も大事ではないか。子育ての前に、青年層が結婚しなければ出生も多くなならない。周りで結婚してない人も多い。青年団協議会として、県から出会いの場を設けるように依頼を受けることもあり、実際行っている。その中から結婚した人も実際にいる。
- ・羽咋市の手厚い子育て支援はもっと市民にアピールしていいと思うが、市民にうまく伝わっていないのではないか。ただ、その前に出会いの場を設けるなど今足りていない事業が多いと思う。

【委員】

- ・私は、JAはくいの組合長をしている。新しい事業を興すことが大事だと考えている。はと麦に取り組み、13人の新たな雇用が生まれた。6次産業と言われているが、作って販売もする。はと麦茶は、一本あたり5円を市に寄付している。1年で10万本売ると計画だったが、3カ月で7万本売れた。市に35万円寄付した。
- ・それぞれの産業で雇用を生み出し活性化を図るのが、まちづくりの基本だと考えている。
- ・私も青年団協議会の会長を昔していた。その時に、市民憲章をつくった。若い人が次世代を創ってほしい。
- ・今、お菓子屋さん提携してはと麦で16種類のお菓子を作ってもらっている。
- ・子育ても大事だが、その環境づくりも大事だと思っている。今後も私のでき

る分野で頑張りたい。

【委員】

・新聞に二つ記事が出ていた。一つは小松市が認知症の方に職員全員が奉仕して対応するという記事。一つは学童保育が全国で2万カ所という記事。
・課長の説明の中で、統合による保育園の通園バス料金は当面の間無料で運行予定とあった。平成18年の邑知を最後に保育園の全ての統合が完了し、もう4年経過している。維持費も圧迫しているだろう。定員数が満たないような状況を踏まえ、個人的な見解だが使用料を若干保護者で負担して、健全な運営を図るのはどうか。給食費を払わない親もいるような昨今なので心配している。保護者が責任をもって協力しあうことが大事だと思う。

【委員】

・児童センターにトランポリンを教えに行っている。小さい子には親御さんもついてくるので、多い時に1時間で20人くらい来ている。それを5年間続けている。PRするため広報に毎月案内を出している。新聞に投稿したところ人数が増えたので、少なからず効果があった。児童館にもいろんなコーナーがあり、プログラムをPRしている。広報も素晴らしいが、いろんな記事が網羅されている。もう少しPRをうまくすればどうかなと思う。私なりに子供の役に立てればいいかなと思っている。

【委員】

・統計の数字を作ることと、現状や傾向を読むということとは別のこと。後者が行政の取り組むべきことだと考えている。
・マーケティングの経験があり、先月も申し上げたが数字は怖いものだ。現状を教えてはくれるが、将来について数字は教えてくれない。
・前は財政の数字が悪いという話があったし、今回の話でも羽咋の合計特殊出生率が県を逆転し悪くなっているということだった。これらから羽咋市の衰退が激しいということが読み取れるのではないか。
・統計をやると必ず人口が先にくる。人口からいろいろなことがわかるからだ。人口のとらえ方、分析の仕方はいろいろな手法で試してみる必要がある。そうすれば原因が見えてくるはず。

【委員】

・土建会社に勤めたことがあるが、その際羽咋工業高校から研修に来ていたが、彼らは県外に就職し、帰ってこない。これでは出生率だけ増やしても意味がな

い。そこまで考えないと羽咋市は損をすると思う。

【会長】

・子どもへの投資の見返りが薄いのではという意見だった。将来ふるさと納税や、親善大使という形で貢献してもらおうという可能性もあるのではないか。

【副会長】

・現実的な意見がたくさん出たが、総合計画は、土木や環境など総合的な大まかな形の審議となる。

・出された資料の保育所運営整備計画や次世代育成計画は、この審議会と同じように市民団体や公募を入れ、現状を把握し将来の課題を見据えたものになっている。こうした柱となるものを積み上げて、確認しながら議論を進めていくことが大事ではないか。この審議会でも議論するための良い材料がそろっていると思う。

(2) 「高齢者」について

健康福祉課長より説明の後、審議

【アドバイザー】

・子育てもそうだが、高齢者の介護について市民からどのような要望があったか、わかれば教えてほしい。

【健康福祉課長】

・次世代育成計画については、策定の際に、保育園等に入園している保護者、小学校低学年の保護者、そして入園していない保護者の一部の方からアンケートをとっている。その結果は、必要があればお示ししたい。

・「いきいきプラン21」については、去年の策定時にアンケートはとっていないものの、介護保険がスタートした平成12年に高齢者の方々からアンケートをとっている。3カ年で1期であり、現在4期に至っている。アンケートの意見が引き継がれ、策定されているものと考えている。介護事業者や各種団体からの意見も聞きながら計画を作っている。

・近年の介護の事業に関して、介護予防を重視した事業が3期から行われている。施設は、地域に密着したグループホームなどに力を入れている。そのような方向で進めている。

【委員】

- ・子育ても含まれると思うが福祉の課題だが、地域コミュニティの欠落が問題になってきているのではないか。葬式や結婚も家ですればいいと思うが、最近しなくなった。家族や親戚が集い、話し合う場がなくなってしまっている。
- ・福祉の事業で、あれもしているこれもしていると市の説明にあるが、あまりに行政が地域のことを抱え過ぎたのではないか。思い切って手を放したらと思う。市が、右肩上がりに税金が入ってきた頃をひきずっているのではないか。
- ・花植えボランティアを町会で呼びかけたところ、20 数名参加いただけただけ。その際にいろいろお話をしたりもするし、そのおかげで近所の方が水をやってくださったりする。地域に失われたものを取り戻すことができないものかと思っている。
- ・お祭りを、つながりを持つための最大のイベントと位置づけている。コミュニティカフェもいいし、地域のたまり場などもどんどん取り入れていきたいと思っている。

【委員】

- ・「いきいいプラン21」だが、中身が堅苦しい。こうした文句、説明だと議論がしづらい。端的にわかりやすい説明書をつくったほうがいいのではないか。専門化したマニュアルだというのはわかるが、市民レベルで高齢者向けなのか、高齢者を介護する若者向けなのか、対象を分けてわかりやすく語りやすいようなものにしてほしい。

【委員】

- ・私は、平成6年頃から介護保険の計画を作ったものの一人。将来どのような形を目指すのか話し合ったが、現状には満足している。羽咋市の今の介護には、若い人も多く参加している。
- ・介護予防もその際に話していた。若い時から健康に気をつけなければということでも市民に対する健康教育が必要だと力説していた。
- ・当初の介護保険の計画策定から十数年たつが、現在の課題としては、後期高齢者、認知症の方についての問題や入所施設の不足などが考えられる。85～90歳の高齢者を家で介護するというのは不可能だと思う。数年先には入所できるための十分な施設を準備することは、次の段階として必要ではないか。
- ・全般的には羽咋市の介護事業はうまくいっていると思うし、全国に誇れるものになっていると考えている。

【委員】

・誰しもが高齢者になっていくものだが、大事なのは家族だと思っている。昔は孫などに囲まれて生活していて心の支えが家族だったが、昨今では核家族化が進み、別々に生活している。昔ながらの生活では自然に親を大事にするという風潮があったが、それが失われつつある。施設なども大事だが、温かみのあるもの、精神的なものが一番大事ではないか。

【委員】

・幸か不幸か家で両親を見送った。母が平成4年に亡くなり、父が平成19年に亡くなった。その間15年の月日のひらきがあるが、母の介護は心苦しい思いをしたが、父の介護は充実していた。羽咋市の介護サービスは素晴らしいものであり、感謝している。

・介護しているとき私も手を空けたいと思うときがあり、配食サービスを頼んだことがある。その際、独り暮らしでなければ駄目だとのことだった。もう少しサービスを拡げてくれたらいいなと思った。

・資料を見て、介護サービスの種類が多くあるのには驚いた。もっと早く知っていたらとの思いはある。こんなに難しい言葉でなく、もっと平易な冊子があればいいなと思う。

【委員】

・介護について、若者の意見としてだが、先ほどの委員の話にあったように家族の和が壊れてきたという流れがあると思う。もし自分が年をとったら老人ホームに独り入っても幸せだろうかと思ってしまう。家族の中で見守られながら、一緒にやっていく方が人間らしく幸せではないか。

・個人的な見解だが、核家族から大家族へとこれからは戻っていくのではないかと見ている。その中で、本当に手に負えない方のみ施設で受け入れするという方向にシフトしていけばよいのではないかと思う。

【委員】

・4月から母子保健推進員となり、地域の福祉推進チームの一員として町内のお年寄りサロンに出かけている。一緒に七夕づくりをしたり、そうめんを食べたりしているが、そこでは地域の方々がボランティアで支えていて、何かしてあげようかという姿勢が素晴らしい。自分が年をとったときに、若い人がこうしたことをしてくれるだろうか心配になる。

・保育所に勤務していたとき、お年寄りが園児に手を差し伸べたところ、園児が手を引っ込めてしまった。お年寄りは「私の手は皺くちやだから」と言って

いたが、保育所にお年寄りと触れ合うがもっとあればいいなと思う。私なりに微力ながらできることはないかと思っている。

- ・お年寄りのサロンが根づいてきているのでいいことだなと思う。

【委員】

・子育ての話だが、核家族で両親とも働いていたら子供をどうするか、問題となる。おじいちゃん、おばあちゃんに子供を預けて家族で育てるという雰囲気にもっていくことが大事ではないか。

【委員】

・会議の進め方はこれでいいのだろうかと思う。このようなやり方で10年間の審議を真剣に出来るのか、会長の方で検討してほしい。

【委員】

・老人会として個人としてNPOの登録をしたが、その際に「頼られるような組織」にしたいと書いた。頼られるためには、逆に頼れる、そのようなものになりたいと思っている。

・80歳になるが、(このような会議に出たりしていることに対して)「まだ世話しとるのか」と言われる反面、「ようやとる」「まだまだ足りんぞ」といったご意見も頂戴する。

・現実を知ること、過去どんなことをしていたのかを知ることが大事だと思う。そういったことを踏まえて議論していけばよいと思うので、このように審議を進めていったらよいと思う。

・子育てについて、30歳になる孫もまだ結婚していない。身から出た錆だと思っている。核家族が進んだ結果ではないかなと思っている。

・行政も委員になっておられる代表の方も含め、羽咋は立派だと思う。高齢者を大事に使って頂いていて有りがたいと思っている。

7. 次回会議について

【事務局】

- ・第3回 7月22日(木) 19時から

8. その他

【アドバイザーから総括】

・審議の進め方は前回も議論になったが、現状がどうかということを知り、その上で今後10年後を見据えようという思いから今回の進め方になったのだと思う。ご意見にもあったので、工夫しながら審議を進めていく必要があるかなとは思う。

・ただし、基本的には、これまでどうだったかを振り返り、今後を考えるという原則は外さず進めていく方向は変えないほうがよいと思う。

【事務局】

・審議の進め方については、アドバイザーと相談し、委員からも直接意見をお聞きして、検討させて頂きたい。

・前回、委員から市のコンセプト、ランドデザインがないとのご意見を頂いたので、地区懇談会の時の説明資料 P16 にたたき台としてお示したのがある。審議会でご提言頂きたいとの思いがある。

・内部の組織を立ち上げており、そこで市のコンセプトないしキャッチフレーズを練る予定なので、時期が来たらお示ししたい。

9. 閉会